

医療法人恵生会 南浜病院

fiscal year 2020 Annual Report



ご挨拶

2020年9月1日より、前任の鈴木好文の後を継ぎ、理事長に就任しました。折しも、新型コロナウイルスの脅威にさらされる中、理事長を交代したことに、改めてその責任の重さを痛感しています。

2020年度は、新型コロナに始まり新型コロナに終わる年でした。4月7日に、東京など7都府県を対象に1回目の緊急事態宣言が発令され、ソーシャルディスタンスの確保やマスク着用などの「新しい生活様式」が提唱されました。その後も各地でクラスターが発生し、国内の感染者は10月に10万人を突破。11月には、政府の需要喚起策「Go Toキャンペーン」の運用も見直されました。経済的な冷え込みも著しく、2020年度の国内総生産（GDP）は、前年度比4.6%減と、戦後最大の下落幅となりました。2021年1月8日からは、2回目の緊急事態宣言が発令され、これを執筆している2021年6月現在は3回目の緊急事態宣言に突入している状況です。

ひとつのウイルスが、私たちの生活をこれほど大きく変えるとは、2019年の時点で、誰も予想できませんでした。ワクチン接種が少しずつ進んでいるとはいえ、まだ収束の確約はなく、出口の見えないトンネルの中にあるような状態が続いています。

今日も、危険に直面しながら業務に従事する感染症対策チームや現場のスタッフ、感染予防にご協力くださる患者さんやご家族の皆様へ、心から感謝を申し上げたいと思います。

精神科医療は、近年、入院中心の医療から地域での医療へと、大きな変革を迫られています。当法人も2020年度から、地域移行支援のため、多職種による訪問診療を開始し、法人3つ目の訪問看護ステーション「セレナ」を開設しました。

このような変革の時期にあって、この冊子は2020年度の当法人の実態を示しています。これらの数字には、困難な状況下で精一杯努力した、すべての職員の熱意が表れています。当法人が65年の長きにわたり運営できたのは、病院に関わる多くの方々に支えていただいたおかげです。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。これからの道のりは平坦ではありませんが、基本理念「病院に関わる人すべての幸せを願う」を道標に、変化を恐れず、皆様とご縁を大切に、よりよい法人になれるよう前進したいと思います。今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和3年6月

医療法人恵生会

理事長 澁谷 雅子



令和2年度年報の 発刊にあたって

令和2年（2020年）度の年報をお届けします。

言うまでもありませんが、当年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策に忙殺された1年でした。前年度の2月29日に東京からの来県者、3月2日に4名の新潟県在住者の感染が確認されて以来、県内においても感染者数は増え続けており、他の医療機関と同様に当院においても来院者の発熱や症状および行動歴の確認、疑い患者用の外来診察室の設置、受付や診察室、待合室等のスクリーンや空気清浄機の設置、換気や消毒の徹底など種々の対策を講じ、令和2年度中は院内における発症者は見られませんでした。これも感染対策チーム（ICT）をはじめとする職員一同の多大なる努力と患者さんやご家族のご協力の結果であり、深く謝意を表したいと思えます。

また、関連各機関におかれてもご協力頂き大変ありがとうございました。受診や入院の受け入れて、ご不便やご迷惑をおかけすることもあり、この場を借りてお詫び申し上げます。

さて、当年度の実績を概観しますと、1日平均入院患者数は前年度を1.8下回る266.6名でした。月平均の差は25名を超えており入院患者数の平準化は前年度から続く課題となっています。しかし、令和2年度から南病棟に加え本館3階病棟における急性期患者の入院受け入れを開始し、11月には精神科急性期治療病棟の届出を行いました。これにより、救急、急性期の入院患者の受け入れをよりスムーズに行うとともに、より多くの方が入院後に転棟せず入院した病棟で急性期治療を完結できるようになり、年間新入院数は延べ638名と大きく増加しています。平均在院日数は前年より短縮傾向ですが、救急・急性期病棟と精神一般病棟で大きな開きがあります。早期に地域生活に復帰する方と長期の入院を余儀なくされる方に二極化しており救急・急性期のみならず慢性期患者の社会復帰支援も取り組んでいかなければならないと考えております。

外来患者数は、前年を大きく割り込んでいます。これには9月の精神科デイケア閉鎖も関連しております。当院で力を入れている心理社会的療法に取り組むなど特色ある活動を行っていましたが、施設の老朽化に加え人員を効率的に運用する必要性もあり閉鎖となりました。今後は近隣の事業所、通所施設と連携するとともに、7月に開設した主に中央区周辺を担当する訪問看護ステーション「セレナ」を含めた3か所の訪問看護ステーションも活用し患者の皆様の地域生活を支えていきたいと考えております。

本稿を執筆中の令和3年8月に、当院において複数名の新型コロナウイルス検査陽性者が判明しました。幸いにもその後拡がりを見せることなく約二週間で通常の診療に戻ることができましたが、今後もさらに感染対策を徹底し、地域における精神科医療を提供していきたいと存じます。今後よろしく願いいたします。

令和3年10月

医療法人恵生会 南浜病院

院長 金子尚史